

## 最新医療と心休まる空間を備えた新病棟お披露目 REPORT 4 庄原赤十字病院西棟竣工内覧会



▲一期棟(西棟)

増改築工事が進められている庄原赤十字病院の一期棟(西棟)工事が完了し4月21日・22日、新病棟のお披露目となる内覧会が行われました。

この一期棟は、地下1階、地上7階建て。1階は患者数が多い内科が配置され、採血・点滴が行える「中央処置室」を隣接して設置。X線やMRIなどの撮影が行える放射線科が配置されています。2階は外科・泌尿器科・皮膚科・耳鼻咽喉科・婦人科・麻酔科の外来と、臨床検査室、化学療法室で構成。3階は手術室と回復室となっており、手術後スムーズに回復室へ入室することが可能です。4階は療養病棟(41床)で、病院職員や学生が研修や打ち合わせなどを行える空間が併設されています。

5・6階は事務室や会議室といった事務フロア、7階は展望の良い外来食堂となっています。

各フロアとも幅広い通路とゆとりとしたスペースが確保されており、開放感のあるつくりになっています。

内覧会では、同病院の医師や看護師などが、訪れた見学者に部屋の用途や機械設備などを丁寧に説明していました。

見学者は「すばらしい施設。よりよい医療が身近で受けられるのは心強い」と話していました。

なお、新病棟での診察は5月2日から始まっています。



◀さまざまな手術に対応できる手術室



▶ゆとりとした外来フロア(2階)

## 身近にある“お宝”再発見 REPORT 5 とうじょう里山倶楽部しあわせづくり活動

しあわせづくり活動計画(庄原市地域福祉計画)を推進する「とうじょう里山倶楽部」が3月26日、東城の良いところを発見し楽しもうと、東城町営にある徳雲寺を訪れました。

とうじょう里山倶楽部は市民約25人で構成し、①東城の自慢を発掘し・創り・広め・お宝にしよう! ②ふるさと好きな子どもをみんなで育てよう! ③「やってえーや」じゃのうて「やろうや〜」の気持ちがあふれるまちづくりをしよう! ④誰でも気軽に集まれる基地を創ろう! を目標に、仲間と一緒に、夢、願い、想いを語りながら、しあわせを感じる活動を計画、実践しています。

当日は一般参加者も含めた36人が、徳雲寺の由来や歴史の講和を聞き、坐禅を体験。また、付近に住み着いた鬼が使ったとされる「鬼臼(おにうす)」を見学したり、周

辺の山野草観察を行ったりと、身近にあるお宝を楽しく発見、再認識する一日となりました。



▲徳雲寺に伝わる「鬼臼」を見学する参加者

## 鉄板のように熱くご当地お好み焼きをPR REPORT 1 広島てっぱん同盟が結成



▲あいさつする西田会長

「広島てっぱん同盟」を結成し、その調印式が行われました。

この広島てっぱん同盟は、お好み焼きにかかせない「鉄板」をキーワードに、それぞれのご当地お好み焼きを広くPRし、地域を盛り上げようと結成されたもので、庄原焼きプロジェクト会議の西田学会長の呼びかけで実現しました。当日は、湯崎英彦広島県知事をはじめ、約

50人の関係者が出席。庄原からは矢吹有司副市長をはじめ、庄原焼きプロジェクト連絡会議のメンバー9人が結成式に臨みました。

今後は、同盟団体の連携を深めるとともに、ご当地お好み焼きを通して地域の魅力を全国に発信していきます。



▲報道陣へ意気込みをPR

## 事故防止にはより一層の安全意識を REPORT 2 庄原市「高齢者交通安全大会」が開催

4月6日から15日までの「春の全国交通安全運動」の一環として4月9日、庄原市「高齢者交通安全大会」が庄原市ふれあいセンターで開催されました。

この大会は、市、庄原地区交通安全協会、庄原警察署、庄原市老人クラブ連合会が合同で主催したもので、近年、高齢者の人傷交通事故が増加している現状から、一層の安全意識の高揚と普及を図り、高齢者の交通事故防止を目的で開催されました。

当日は、老人クラブの交通安全指導員など約150人が参加。庄原警察署の谷野秀行交通課長による「高齢者事故の現状と対策」と題した講演の中で、飲酒運転の

危険性を訴える寸劇が披露されました。また、夜間には反射材がとても有効であると実演を交えて説明し、着用を呼びかけました。

最後に、庄原地区交通安全協会の谷口寿太郎会長が交通安全宣言を行い、交通事故のない、安全で快適な庄原市の実現を目指すとの思いを再確認しました。



▲交通安全協会による寸劇

## 春のまちなみの雰囲気味わいに多くの人 REPORT 3 東城まちなみ春まつり

4月17日から23日にかけて、夢街道ルネサンス認定地区「街道東城路」の約600mの区間で、各家に伝わるひな飾りなどが華やかに並ぶ「東城まちなみ春まつり」が開催されました。

期間中には市街地の桜も満開となり、三楽荘の見学やスタンプラリー、ひな飾りの展示を楽しむ多くの人でにぎわいました

オープニングセレモニーでは、子ども神楽や比婆荒神神楽の上演、土・日には、三楽荘で琴の演奏、東城まちなみ交流施設「えびす」の野外ステージでは、吹奏楽、ギ

ター、和太鼓などの演奏で盛り上がりしました。訪れた人は風情ある東城のまちなみの雰囲気を感しながら、春の一日を満喫していました。



▲三楽荘での琴演奏



▲子ども神楽がオープニングを飾る



## 自分たちのまちは自分たちできれいに 口和中柔道部員が清掃作業

REPORT 8

口和中学校の柔道部員4人が3月28日、顧問の吉津宏子教諭と一緒に、登下校ルート沿いのごみ拾いを行いました。

同部員は登下校中、ゴミがひどく散らかっているのに気づき、きれいな口和であってほしいとの思いから、自分たちで自らゴミを拾いたいと行動に移しました。

当日は、永田のハートウイングを出発し、永田市場から大塩方面約1\*にわたり、2時間30分かけて空き缶やビニールごみなどを拾い歩きました。

部員たちは「地域の方から『ありがとう』と声を掛けてもらった時はとても嬉しかった。清掃作業をしなくていい環境になってほしい」と話していました。



▲率先してごみ拾いを行う柔道部員

## かかりつけ医として頑張ります! 総領診療所に舩田医師が赴任

REPORT 9

国民健康保険総領診療所の所長として赴任した舩田裕道医師が、4月2日から診療を開始しました。

5年間勤務した永井道明前所長の後任となる舩田医師は広島市出身。平成21年4月から本年3月までの3年間、庄原赤十字病院で内科医として勤務経験があり、本年度から自治医科大学からの派遣医師として、総領地域の医療を担います。

診療は、高血圧・高脂血症・糖尿病などの生活習慣病の管理を中心に、内科一般、予防接種、往診などを行います。

舩田医師は「かかりつけ医として地域のニーズに応え

られるよう、スタッフ一同頑張っていきたいと思います。気軽にいろいろとご相談ください」と話しています。



▲診察する舩田裕道医師

## 世代間でふれあい交流 比和保育所でひなまつりお茶会

REPORT 10

「ひなまつりお茶会」が3月2日、比和保育所で行われ、園児32人と園児の祖父母や地域の方など28人が参加し交流を深めました。

当日は年長児10人が、地域の茶道講師堀江ミツコさんから、お茶席での歩き方やおじぎの仕方などの作法を教わり、実際にお茶運びを体験しました。

園児たちは、お茶会の雰囲気緊張した面持ちで、お盆にのせたお茶や菓子を小さい組の園児やお客さんに運んでいました。

その後、みんなで一緒にひなまつりの歌を歌い、こま回しやあやとり、お手玉などを楽しみました。

抹茶を飲んだ園児は「ちょっと苦かったけどおいしかった」と話し、参加した皆さんは「おじぎが上手で子どもたちがかわかった」「毎年ひなまつり会が楽しみです」と喜んでいました。



▲園児たちのお点前になっり

## 晴れの日の装いを再現 しあわせ館まつりでファッションセラピー

REPORT 6

庄原市西城保健福祉総合センターしあわせ館で4月15日、第13回しあわせ館まつりが開催されました。

しあわせ館まつりは、しあわせ館で活動しているボランティアグループなどが、日ごろの活動の成果を発表する展示やバザーなどを行う手づくりのイベントです。

今年は、装うことによる心身の活性化効果が期待されている「ファッションセラピー」に注目。晴れの日の装いである結婚式が、伝統的な祝言行列と現在の洋装の結婚式、2つスタイルで再現され好評を博しました。

地元の唄い手によって伝統の長持唄が唄われる中、しあわせ館のステージに祝言行列が入場すると、400人の来館者は100年前の祝言の雰囲気うっとり浸っていました。

この催しは、しあわせ館を利用している高齢者がモデルとなり、地元の美容院などの協力も得て実現したもので、洋装結婚式の新郎新婦の年齢は、合わせて170歳でした。

しあわせ館まつり実行委員会の小谷勝行委員長は

「美しく装うことで背筋が伸び、表情が生き生きと若返っていくのを見て、ファッションセラピーの効果を実感した。生きがいつくりの活動に取り入れていきたい」と話していました。



▲好評だった高齢者モデルの祝言行列

## 地元特産品を広くPR 「高野の逸品2012春編」パンフレットが完成

REPORT 7



▲パンフレットの完成を喜ぶ委員会のメンバー

地元特産品を知ってもらい地域経済の活性化を図ろうと、「高野の逸品100プロジェクト委員会」が、高野地域の農産物などを活用した特産品「高野の逸品」を紹介したパンフレットを作製しました。

同委員会は、平成25年春の中国横断自動車道尾道松江線の開通や、高野観光交流ターミナル「道の駅」(仮称)の開業を見据え、「高野の逸品」を100アイテムそろえようと、昨年5月から活動を開始。広島県の未来創造事業などを活用し、商品開発や商品改良、テスト販売などを進めています。今回は、その中で「高野の逸品」として認証した28アイテムとともに、四季折々の高野の表情や生産者情報をパンフレットに詰め込みました。

編集した地域おこし協力隊の檀上理恵さんは「手間を惜まず、安全・安心にこだわった商品ばかり。その作り手の思いが消費者に届いてほしい」と話しています。

A4サイズ・フルカラーの8ページで、百貨店のギフトカタログのように上品に仕上がったパンフレット。今後、市内観光施設などに配布される予定です。



▲完成したパンフレット